"QUEST FOR TRUTH" スピンオフ企画

from Mathematics Room 数楽通信 Vol.6

平成 29 年 3 月 10 日 発行
発行者：大城 英暉
（勝手にやってます）

「もうこれ以上のアイデアを考えられない」と
思った後にこそ、
良い考えは生まれる。

トーマス・エジソン（発明家／アメリカ）

英語、国語、などなど

高校時代は国語と英語が苦手だった (^^;)。〈言われなくても分かってるって？）漢字はよく忘れるし、英語は「聞けない、書けない、喋れない」の三重苦（「読めない」まで入れると自分がかわいそうな気がするので敢えて外す）だったりする。ところが、数学を研究するような立場（大学院生など）になると基本的に読むのは英語の論文で、自分が論文を書くにしても英文で書かなければならない。高校生～大学受験くらいの頃は試験問題の見開き 2 ページの英文を目の当たりにした瞬間に軽いめまいを覚えるくらいだったのに、英語で論文や書物を読まなければならない・・・倒れそうだった。でもやらなきゃ先に進めないから辞書を片手に、なんとか読もうとした。そのうちなんとなく読めるような感じがして、数学の本や論文ならどうにか書いてあることが分かるようになってきた。とは言っても、書いてある数学的な内容が理解できるか、というのは全く別次元の話で、ボンクラな私の頭ではよくわからないことばっかりです (;;)。それはさておき、高校時代に英語もっと頑張っとけばよかった、って今でも後悔しています。

自分たちの思考は自分たちが使っている言語に支配されていると思っています。概念などは、それに見合うような言葉が定義されていたりする。例えば数学 B で出てくる「1 次独立」という言葉からは、その時考えている空間をつかさどる 1 組の基準みたいなのを私は想起します（連想ゲームのように「基底」という言葉も頭に浮かんでくる）。難しい概念でも言葉を通して共通理解が図られていればお互い話しが通じるし、扱っている事柄についてより深く考えることが出来る。逆に用語や定義が曖昧だったり、誤解してたりすると話が通じないし、考えが深化することもない。語彙が豊富で、言葉をちゃんと理解し、それを自在に扱える人は自分の意見を他人に伝えることが上手だし、深い思考ができる人だと思います。

数学を生業としているものであっても、自分ひとりで生きているわけではなく、様々な人や、政府の決定事項、その他もろもろとのつながりの中で生きている。だから社会に目を向けて、自分の立ち位置みたいなものを確立していかなければならない。いま起こっている社会現象などを正しく理解する力がないと、生きにくい気がします。だから世界史を始めとする社会科なんかも知識がないとダメだな～、なんて思います。今生徒の皆さんが学んでいることに無駄なことなんてないと思いますよ。そして、新聞や本を読んで自分の意見を作り上げていきましょう。

Quest.

1. Three points in the plane are given, not all on the same straight line. How many lines can be drawn which are equidistant from these points?

2. Four points in space are given, not all in the same plane. How many planes can be drawn which are equidistant from these points?

★ 1 年 3 組の生徒は、1. はすでに見せているので、2. を考えて下さい。